

中学校体育授業における他者態度尺度の開発

阿尾知記 (横浜国立大学)

1. 目的

本研究の目的は、教育において重要視されている「協働」や「共生」に焦点を当て、以下の3つを目的とする。

I 中学校体育授業中の他者の態度を構造的に捉えること

II 中学校体育授業中の他者の態度において、学年や性の違いを検討すること

III 体育授業に求められている態度において生徒の運動に対する意識の違いによる影響を検証すること

2. 研究方法

1) 対象者：中学1年生～中学3年生 (827人)

2) 調査時期：2021年11月中旬から12月上旬

3) 調査方法：質問紙調査 (1. 基本データ、2. 運動に対する意識の質問4問(運動好意度、運動に対する自信、運動頻度、体育授業好意度)、3. 体育授業における他者の態度についての質問27問(村瀬ら(2012)、梅澤(2021)質問を参考)の3つから構成)

4) 分析方法：IBM SPSS 25.0を用い、探索的因子分析(研究I)、2要因分散分析、1元配置分散分析(研究II、III)、AMOS 28.0を用い、確認的因子分析(研究I)を行った。

3. 結果と考察

1) 研究I 体育授業における他者態度尺度の開発

探索的因子分析の結果、3因子14項目が抽出された。第1因子は、一緒に協力する態度や他者を支える態度で構成され「協働・支援的態度」と命名した。第2因子は、様々な差を受容し包摂する態度や他者を排除する態度で構成され「共生的態度」と命名した。第3因子は、他者に対して規範的行動を呼びかける態度で構成され「規範的態度」と命名した。本研究では、開発した尺度を「体育授業における他者態度尺度」と命名した。なお、各因子の信頼性、モデル適合度は確認された。

因子	F値	有意差
協働・支援的態度	学年間主効果 5.379**	1年生>2年生**、3年生>2年生†
	性別間主効果 0.002 ^{ns}	男女間の有意差なし
	交互作用 0.352 ^{ns}	
共生的態度	学年間主効果 2.827†	1年生>2年生*
	性別間主効果 5.958*	男<女*
	交互作用 0.550 ^{ns}	
規範的態度	学年間主効果 15.118***	1年生>2年生***、1年生>3年生***
	性別間主効果 5.680*	男<女*
	交互作用 2.366 ^{ns}	

表1 各因子の学年差と性差の比較

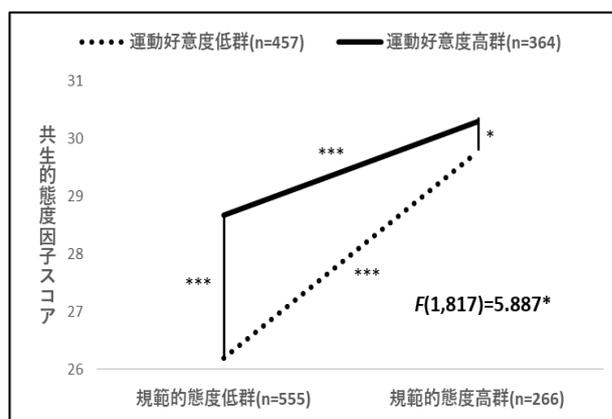
2) 研究II 体育授業における他者態度において中学生の学年差、性差の要因が及ぼす影響の検討

2 要因分散分析と単純主効果検定の結果は表1のようになった。学年間比較において、中学2年生は他者の協働・支援的な態度を感じていないことが明らかとなった。加えて、2年生は1年生より他者の共生的な態度を感じていないことが明らかとなった。また、中学1年生は他者の規範的な態度を感じていることが明らかとなった。性別間比較では、女子は男子より共生的・規範的な他者態度を感じていることが明らかとなった。

3) 研究III 中学生の運動への意識と規範的態度が体育授業で共生的態度に与える影響の検討

共生的態度因子を従属変数、規範的態度因子と運動好意度を独立変数とした2要因分散分析の結果、交互作用がみられた($F(1, 817)=5.887, p < .01$)。「運動好意度(高・低)」×「規範的態度(高・低)」(図2)では、単純主効果も全てで有意であった。

図1 運動好意度と規範的態度の2要因分散分析



4. 結論

本研究では、「体育授業における他者態度尺度」が開発され、「協働・支援的態度」、「共生的態度」、「規範的態度」の3因子14項目が抽出された。

体育授業において、他者の共生的な態度、すなわち共生的なクラス雰囲気をつくるためには規範的なクラス雰囲気をつくることが有効であると考えられる。

5. 参考文献

梅澤秋久・村瀬浩二・坂本光平(2021) 共生の視点を重視した小学校高学年の体育における態度尺度の開発. スポーツ教育学研究, 41(2): 1-20